

平成 30 年度 事業計画書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

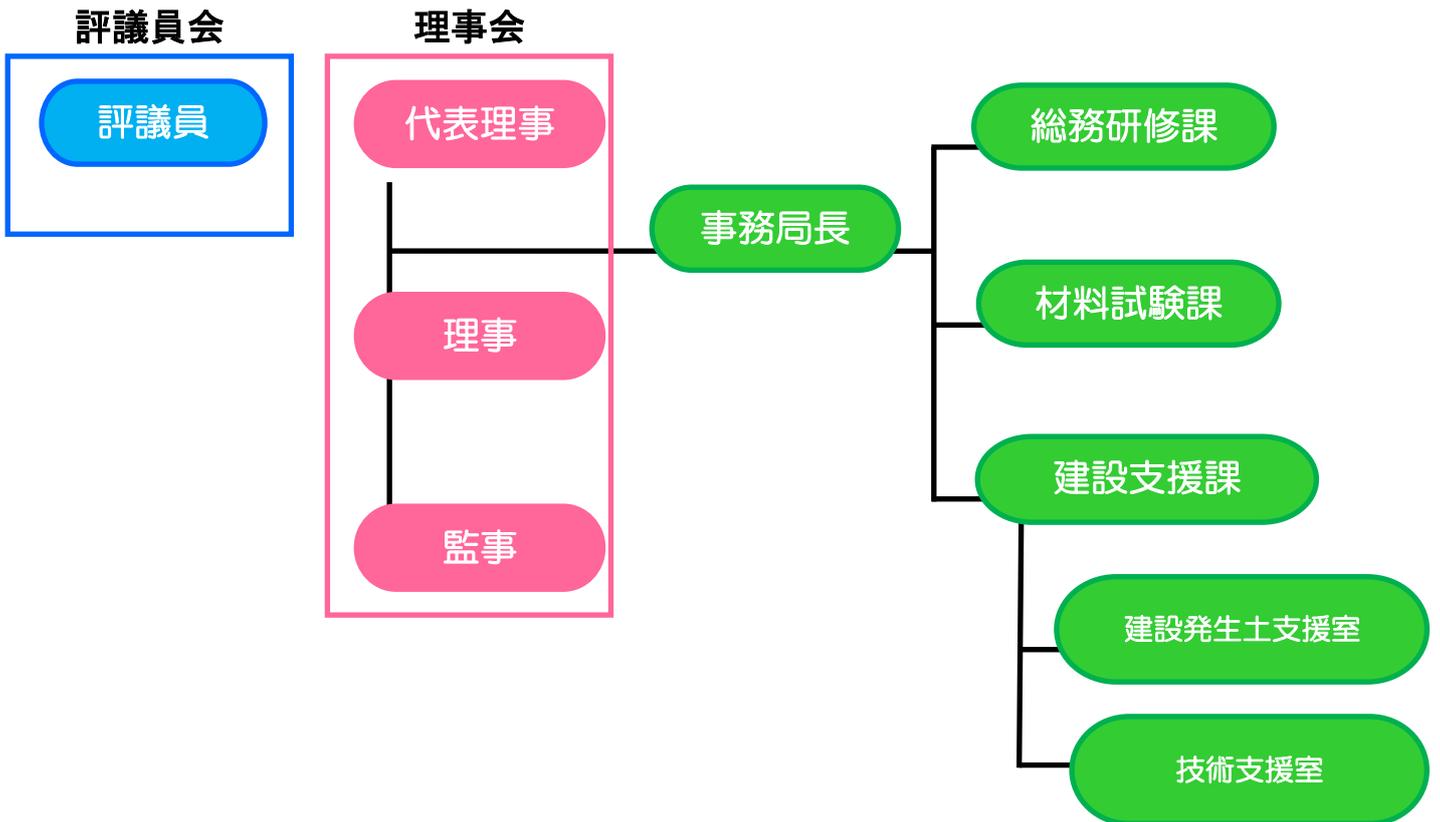


公益財団法人 鳥取県建設技術センター
Tottori Construction Technology Center

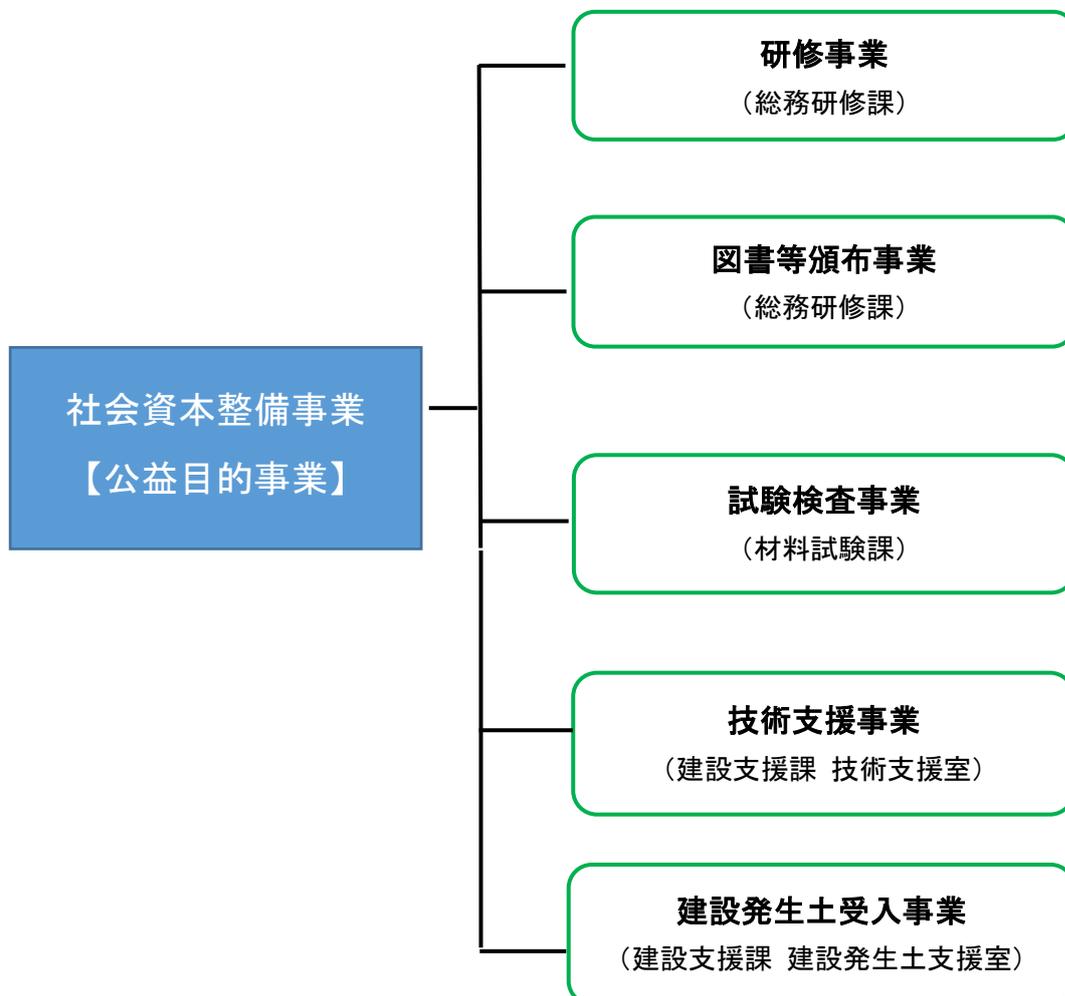
目 次

・ 組織	1 頁
・ 平成 30 年度事業一覧表	1 頁
・ 事務局職員	2 頁
1 社会資本整備事業	3～16 頁
1-1 研修事業	(3 頁)
1-1-1 自主研修	(4～5 頁)
1-1-2 受託研修	(6 頁)
1-1-3 その他の研修	(6 頁)
1-2 図書等頒布事業	(7 頁)
1-3 試験検査事業	(8～9 頁)
1-4 技術支援事業	(10 頁)
1-4-1 技術支援事業	(10～12 頁)
1-4-2 新規業務	(12 頁)
1-5 建設発生土受入事業	(13～16 頁)
2 法人の運営・管理の運営	16 頁

【組織】



【H30 年度事業一覽表】



事務局職員

(H30.3.1 現在)

所 属	職 名	氏 名	主な担当	備考
	事務局長（兼）総務課長	浅田 正人	事務局の総括、総務研修課の総括	
総務研修課	参 与	三原 正司	建設産業育成事務	
	主 幹	井上 純一	総務事務の総括	
	主 幹	前田 民子	研修業務の総括	
	副主幹	浦田 純子	総務事務担当	
	主 事	藤井 成之	研修業務担当	
材料試験課	課 長	宮脇 泰一郎	材料試験課の総括	
	参 与	松井 信作	コンクリート試験・調査研究業務	
	主 幹	松永 和彦	土質・鋼材試験	
	主 幹	大西 慶祐	アスファルト・骨材試験	
建設支援課	課 長	澤 邦洋	建設支援課の総括	県職員
建設発生土支援室	室 長	吉田 和史	建設発生土支援室の総括	
	参 与	前田 健文	発生土の受入業務、事業所の整備 (第2三谷、小原、山上事業所等)	
	技 師	岡野 博樹	発生土の受入業務、事業所の整備(帽子取、岩美事業所等)	
技術支援室	課長（兼）室長	澤 邦洋	技術支援室の総括	
	参 与	赤川 定	技術企画の総括	
	参 与	反田 敏博	コンクリートひび割れ診断業務、橋梁アドバイ業務の総括	
	副主幹	石井 一彦	電子納品・電子ファイリングシステムの利活用、積算業務	
	副主幹	井上 和大	橋梁アドバイ業務、積算業務	
	技 師	竺原 努	SIP 業務、積算業務	

1 社会資本整備事業

H30年度は、経営改善計画（H28～H32）の基本理念である「地域社会の健全な発展に貢献しながら安定した経営を目指す」に基づき、課題の解決に取り組み着実に事業展開を図っていきます。

〈研修事業〉

- ・技術力の向上並びに若手技術者の人材育成を目指した研修

〈試験検査事業〉

- ・技術力の向上と需要の多い試験・専門性の高い試験のPRによる事業量確保

〈技術支援事業〉

- ・市町村への積極的支援と効率的なインフラ維持管理支援に向けた取組

〈建設発生土事業〉

- ・公共事業を円滑に進めるため、新規事業所開設に向けた取組

1-1 研修事業

H30年度のポイント

【自主研修】

○研修業務は、「技術者の健全な育成を支える研修」「インフラ長寿命化計画を支える研修」「若手技術者研修の拡充」の3つの柱のもと、H29年度の研修の検証結果を踏まえた研修内容の充実、技術者に必要とされる資格やスキル等の整理によるレベル（初級～上級）の見直しにより、現場管理ができる技術者の育成を目指した研修を開催します。

〈H29年度の検証結果を踏まえた方針〉

- ・新人研修は現場が必要とする基礎知識、技術講座の追加
- ・階層的な技術力のステップアップに繋がる研修の企画
- ・受講生の意見、最新情報等を取り入れた研修の企画
- ・他団体の研修と重複する講座の調整

【鳥取県等からの受託研修】

○県土整備部技術職員研修を継続して受託するとともに、新規に林道橋点検診断技術研修を受託し、林道管理者である市町、森林組合の担当者の人材育成を図ります。

【その他の研修】

○とっとり建設産業の魅力発信講座、建設産業育成研修（鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会）を継続して行います。

1-1-1 自主研修

業務名	内 容	予 算 H30 年度 (H29 年度)																																									
① 自主研修 (継続)	<table border="1" data-bbox="240 293 1034 495"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>講座数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30 年度計画</td> <td>47</td> <td>4,600 人</td> </tr> <tr> <td>29 年度計画</td> <td>43</td> <td>4,480 人</td> </tr> <tr> <td>対前年</td> <td>4</td> <td>120 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>1 技術者の計画的な技術力の底上げを図る研修</p> <p>① 新人(経験年数 5 年未満)が現場で必要となる基礎的知識を習得し、業務への興味や関心を高めるための研修を実施します。 「CAD 研修 (基礎)」「若手技術者のための水理学」「新人技術者のための土質力学 (基礎)」等</p> <p>② 初級 (新人・若手技術者: 経験年数 5~10 年) のための研修を実施します。 「土木施工管理 (共通編)」「施工計画」等</p> <p>③ 中級 (現場管理や若手を指導できる技術者: 経験年数 10~20 年) の技術力の底上げを目指した研修を実施します。 「道路橋示方書に関する講習会」「受発注者のための品質確保」等</p> <p>④ 上級 (現場の専門性に対応できる技術者: 経験年数 20 年以上) のための研修を実施します。 「電気・機械設備の品質管理」「下水道の維持管理」等</p> <p>2 研修のレベル設定 (初級~上級) と経験年数の見直し</p> <p>経験年数 20 年以上の受講者が半数を占めるが、そのうち無資格者が 26% である現状を改善するため、次のとおり研修レベルの設定 (初級~上級) を見直し、計画的に研修を実施します。</p> <table border="1" data-bbox="360 1339 1166 1581"> <thead> <tr> <th colspan="2">H29年度</th> <th rowspan="2">➔</th> <th colspan="2">H30年度</th> </tr> <tr> <th>レベル</th> <th>経験年数</th> <th>レベル</th> <th>経験年数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初級</td> <td>5年未満</td> <td></td> <td>新人</td> <td>5年未満</td> </tr> <tr> <td>中級</td> <td>5~10年</td> <td></td> <td>初級</td> <td>5~10年</td> </tr> <tr> <td>上級</td> <td>10年以上</td> <td></td> <td>中級</td> <td>10~20年</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>上級</td> <td>20年以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 受講生の利便性の向上等</p> <p>H30 年度も引き続き、受講生の利便性の向上や受講環境の整備に努めます。</p> <p>① Wi-Fi の導入</p> <p>研修室に Wi-Fi を導入し、受講生がスマートフォン等で自由にインターネットにアクセスできる環境を整備するとともに、インターネットを活用して研修内容の充実を図ります。</p> <p>② 研修 P R の充実</p> <p>研修内容や講師の詳細な情報をホームページに分かりやすく表示するとともに、研修案内を受講生に直接メール送信する等、研修の P R に努めます。</p>	区分	講座数	受講者数	30 年度計画	47	4,600 人	29 年度計画	43	4,480 人	対前年	4	120 人	H29年度		➔	H30年度		レベル	経験年数	レベル	経験年数	初級	5年未満		新人	5年未満	中級	5~10年		初級	5~10年	上級	10年以上		中級	10~20年				上級	20年以上	19,592 千円 (15,710 千円)
区分	講座数	受講者数																																									
30 年度計画	47	4,600 人																																									
29 年度計画	43	4,480 人																																									
対前年	4	120 人																																									
H29年度		➔	H30年度																																								
レベル	経験年数		レベル	経験年数																																							
初級	5年未満		新人	5年未満																																							
中級	5~10年		初級	5~10年																																							
上級	10年以上		中級	10~20年																																							
			上級	20年以上																																							

H30 年度自主研修計画一覧表

区分	研修名		レベル	加点 研修	CPD研修			受講 者数
					CPDS	コンサル 協会	建築士 会	
一般的な 土木の 施工・管 理	1	現場管理スキルアップ	中級	技術	○	○		130
	2	安全管理（リスクアセスメント）	中級	技術	○	○	○	240
	3	設計から施工までのリスク管理・危機管理	中級	技術	○	○		110
	4	事故を減らすための安全管理	初級	技術	○	○	○	240
	5	落石の事例と対策	中級	技術	○	○		80
	6	仮設工	初級	技術	○	○	○	120
	7	工事施工中の環境配慮	初級	技術	○	○	○	130
	8	土質・地質による工法選定	中級	技術	○	○	○	120
	9	情報共有システム ※	初級		○			50
	10	軟弱地盤対策	上級	技術	○	○	○	100
	11	i-Construction	中級	技術	○	○	○	120
	12	労働安全管理と足場【新規】	中級	技術	○	○	○	80
	13	建築工事の品質管理【新規】	上級	技術	○	○	○	60
	14	電気・機械設備の品質管理【新規】	上級	技術	○	○	○	60
	15	土木施工管理（共通編）【新規】	初級	技術	○	○		90
	16	施工計画【新規】	初級	技術	○	○		90
	17	受発注者のための品質確保【新規】	中級	技術	○	○		90
	18	道路橋示方書に関する講習会【新規】	中級		○	○		80
	19	多自然川づくり【新規】	中級	技術	○	○		90
	20	標準見積書の作成【新規】	初級	技術	○	○	○	100
	21	建設工事の入札制度 ※	初級	技術	○			120
	22	土木技術者の倫理【新規】 ※	中級		○	○	○	50
インフラ 長寿命化	23	事例から学ぶコンクリート構造物ひび割れ補修	中級	技術	○	○	○	130
	24	道路構造物の維持管理	中級	技術	○	○		130
	25	橋梁維持補修(施工)	上級	技術	○	○		90
	26	橋梁点検と補修計画	上級		○	○		70
	27	河川構造物の維持管理	上級	技術	○	○		70
災 害	28	下水道の維持管理【新規】	上級	技術	○	○	○	70
	29	事例から学ぶ災害対応（地震編）	初級	技術	○	○	○	100
	30	土砂災害【新規】	初級	技術	○	○	○	120
若手技術者 基礎研修	31	基礎から学ぶ土木工事積算	初級		○	○		80
	32	新人・若手技術者のための公共工事基礎	新人	技術	○			60
	33	現場で役立つやさしい構造力学	新人	技術	○	○	○	60
	34	新人・若手技術者のための土木材料品質管理	初級	技術	○	○	○	50
	35	測量実習	新人		○		○	50
	36	新人技術者のための土質力学(基礎)【新規】	新人	技術	○	○	○	60
	37	若手技術者のための水理学【新規】	新人	技術	○	○	○	60
	38	CAD 研修【新規】	新人		○	○	○	40
受験準備	39	技術士受験準備研修会	上級		○	○		30
	40	測量士受験準備研修会	中級		○	○		40
	41	補償業務管理士受験準備研修会	中級			○		40
	42	コンクリート診断士受験準備研修会【新規】	上級		○	○	○	30
経営者	43	経営管理Ⅰ ※		経営				280
	44	経営管理Ⅱ ※		経営				120
人材育成	45	コミュニケーション ※		人権			○	180
	46	リーダーシップ ※		人権			○	120
	47	人権に関する講習会 ※		人権				170
		計						4,600

(注) ※は半日研修

1-1-2 鳥取県等からの受託研修

業 務 名	内 容	予 算 H30 年度 (H29 年度)
①県土整備部 技術職員研修 (継続)	県土整備部技術職員研修を継続して受託します。 (鳥取県県土整備部技術企画課で研修内容を検討中)	3,882 千円 (3,882 千円)
②林道橋点検診断技 術研修 (新規)	鳥取県農林水産部から受託します。 ・林道管理者である市町、森林組合の担当者 (約 60 名) を対象として、 林道橋の基礎知識及び点検方法等の研修会を開催し、人材育成を図ります。 ・研修を通じて、管理者自らが一時点検 (健全なものとはこれ以外なもの) を行うための知識・技術の習得を図ります。 ・年 1 回開催 連続しない 3 日間 (室内 1 日及び現地 1 日×2 日)	807 千円 (一千万円)
③下水道排水設備工 事責任技術者更新講 習	「鳥取県下水道協会下水道排水設備工事責任技術者資格認定要領」に基 づき、責任技術者の「更新及び更新講習」を鳥取県下水道協会から受託 します。 ・更新講習 ①開催時期 H30.11 月頃 ②開催場所 中部 ③開催回数 2 回 (午前、午後) ④修了者へ責任技術者証を交付 (285 人)	627 千円 (一千万円)
計		5,316 千円 (3,882 千円)

1-1-3 その他の研修

業 務 名	内 容	予 算 H30 年度 (H29 年度)
① とっとり建設産 業の魅力発信講 座 (継続)	将来の県内建設産業の担い手確保を目的として、小中学生を対象に建設 産業への関心や就業意識を高めるための講座を開催します。 ・講座内容：出前説明会 (近隣の 3 小学校と 1 中学校) を開催予定	500 千円 (682 千円)
②建設産業育成研 修 (鳥取県建設分野 担い手確保・育成 連携協議会：平成 29 年 1 月設立)	鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会では、引き続き、関係機関と 協議しながら各事業を推進していきます。 1 建設分野の担い手確保の推進に関する事業 2 建設分野の担い手育成の推進に関する事業 3 建設分野の生産性向上の推進に関する事業 4 建設分野の魅力発信に関する事業 〈協議会の設立目的〉 産官学が連携し建設分野の担い手確保・育成の取組及び公共工事の生産性の向上 に向けた取組等を推進することにより、持続可能な建設産業の発展及び建設分野に おける国土強靱化に寄与することを目的とする。	7,123 千円 (6,967 千円) 建設業振興基金 2,000 千円 (2,000 千円) 鳥取県 (担い手協議会) 5,123 千円 (4,967 千円)
計		7,623 千円 (7,649 千円)

1-2 図書等頒布事業

H30年度のポイント

- 建設工事に関する図書等の販売をします。
- 現場で役立つ土木全般の専門書の整備を整備し、図書室の利用、図書の貸出に努めます。

業務名	内 容	予算 H30年度 (H29年度)																																								
図書頒布	<p>主に設計書等複写用プリペイドカードを販売します。</p> <p>「公共施設の植栽管理・整備マニュアル（仮称）」は、県が公共事業で緑化を推進していくための技術的な手引書として H6.2月に発刊したものであり、H29年度に改訂版を発刊する予定でしたが、関係機関との調整に時間を要し、発刊時期が未定であることから H30年度は図書発刊を見送ります。</p> <p>H30年度図書等頒布一覧表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図 書 名</th> <th>部数</th> <th>販売単価 (円)</th> <th>H30 収入 (千円)</th> <th>H29 収入 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(新規) 公共施設の植栽管理・整備マニュアル (仮称)</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>960</td> </tr> <tr> <td>設計、測量、地質・土質調査共通仕様書</td> <td>10</td> <td>2,800</td> <td>28</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>道路工事関係技術便覧</td> <td>10</td> <td>1,450</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>土木工事施工管理ハンドブック</td> <td>20</td> <td>4,100</td> <td>82</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>河川・海岸便覧 ほか4種</td> <td>12</td> <td>1,050～</td> <td>14</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>プリペイドカード (設計書等複写用)</td> <td>420</td> <td>3,100</td> <td>1,302</td> <td>1,240</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>472</td> <td></td> <td>1,440</td> <td>2,344</td> </tr> </tbody> </table>	図 書 名	部数	販売単価 (円)	H30 収入 (千円)	H29 収入 (千円)	(新規) 公共施設の植栽管理・整備マニュアル (仮称)	0	0	0	960	設計、測量、地質・土質調査共通仕様書	10	2,800	28	28	道路工事関係技術便覧	10	1,450	14	14	土木工事施工管理ハンドブック	20	4,100	82	82	河川・海岸便覧 ほか4種	12	1,050～	14	20	プリペイドカード (設計書等複写用)	420	3,100	1,302	1,240	計	472		1,440	2,344	1,440千円 (2,344千円)
図 書 名	部数	販売単価 (円)	H30 収入 (千円)	H29 収入 (千円)																																						
(新規) 公共施設の植栽管理・整備マニュアル (仮称)	0	0	0	960																																						
設計、測量、地質・土質調査共通仕様書	10	2,800	28	28																																						
道路工事関係技術便覧	10	1,450	14	14																																						
土木工事施工管理ハンドブック	20	4,100	82	82																																						
河川・海岸便覧 ほか4種	12	1,050～	14	20																																						
プリペイドカード (設計書等複写用)	420	3,100	1,302	1,240																																						
計	472		1,440	2,344																																						

業 務 名	内 容	予算 (支出) H30年度 (H29年度)
図書室の図書利用の拡大と現場で役立つ土木全般の専門書の整備	<p>研修の休憩時間に、受講生に読書等をしていただけるよう、引き続き麦茶の設置、研修時の新着図書紹介等により、図書室の利用拡大に努めます。</p> <p>また、センターで所蔵する図書を鳥取県立図書館に貸し出す等、鳥取県図書館ネットワークを活用して図書の貸出し増を目指します。おって、専門高校で図書のPRをするとともに、漫画で分かりやすい本を中学校の図書館に貸出しする等図書の活用を努めます。</p> <p>なお、受講生や図書室利用者へのアンケートや聞き取りにより、希望のあった専門書を購入する等、継続して図書の整備を行います。</p>	200 (500)

1-3 試験検査事業

H30年度のポイント

○インフラの長寿命化が求められ、今後もコンクリートの維持管理に関する試験の需要が継続して見込まれることから、維持管理に関する試験項目を顧客にPRし、事業量の確保に努めます。

○鳥取大学等関係機関と連携しながら、幅広く調査研究活動を継続し、技術力の向上に努めます。また、技術的な信頼性を高め、土質の三軸圧縮試験など専門性の高い試験の依頼件数増を目指します。

1 収入確保に向けた取り組み

H30年度の上期は鳥取県中部地震や大雪による災害復旧工事関連の試験依頼が見込まれますが、下期は減少していくと思われまます。安定した収入確保を目指し、継続して需要が見込まれるコンクリートの維持管理に関する試験、専門性の高い土質の三軸圧縮試験に力点を置き、関係機関へ営業活動（PR等）を行い、収入確保に努めます。

【試験項目別収入】

試験分類	H30年度予算 A		H29年度予算 B		増減額 A-B	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
土質	2,211	23,993	2,097	22,760	114	1,233
骨材	939	6,369	939	6,369	0	0
コンクリート	24,911	30,795	20,560	25,416	4,351	5,379
アスファルト	597	1,215	597	1,215	0	0
鋼材	749	1,008	749	1,008	0	0
計	29,407	63,380	24,942	56,768	4,465	6,612

【関係機関への営業活動による収入増加目標】

※収入増加額 6,612 千円に含まれる。

関係機関	試験項目	収入増加額
コンサル、施工会社等	コンクリートの維持管理に関する試験（コア圧縮強度、静弾性係数、塩化物イオン、中性化、残存膨張量等）	2,000 千円

2 試験業務の充実

(1) 新規試験

試験機関として土質分野を充実させるため、地盤改良、ソイルセメント等における改良材の添加量を求める「室内配合試験」を導入します。これは、土試料の供試体を作成して一軸圧縮試験を行い改良材添加量と一軸強度の関係を求めるもので、顧客から要望のあったものです。

(2) 既存試験

特に、土質の三軸圧縮試験は専門性が高く技術力を必要とする試験であり、調査研究活動の継続によって技術力の向上に努め、顧客の満足する試験を提供していきます。

3 調査研究活動

5ヵ年の経営改善計画に従い、調査研究活動として、H28年度から鳥取大学と連携して次の取組を進めています。

(土質分野)

- ①新規試験として導入する改良土の室内配合試験に関連して軟弱土の土質改良に関する研究
- ②三軸圧縮試験の技量向上、データ収集のため、県内ボーリング試料による三軸試験の実施（今後、蓄積されたデータを用いて県内の土質と強度の関係を整理していきます。）

(コンクリート分野)

- ①環境をテーマとして、リサイクル材料を用いたポーラスコンクリートの開発
- ②ひび割れ抑制対策をテーマとして、膨張コンクリートの研究
（先行してコンクリートの練り混ぜ設備の整備、基本配合作成等の準備を進めています。）

1-4 技術支援事業

H30年度のポイント

- 県、市町村からの各種受託業務を計画的かつ効率的に実施します。
- 市町村の建設工事からメンテナンスまで総合的に支援するため、工事積算・現場技術業務、橋梁補修アドバイス業務、災害復旧支援などの拡充に努めます。
- 土木インフラの効率的な維持管理を推進していくため、県と鳥取大学の共同研究により開発する維持管理システムを活用した、県・市町村インフラ維持管理支援の取組を進めます。
- 建設産業における生産性向上を図る建設 ICT 活用における技術支援として、ドローンを活用した測量データの3次元化や橋梁等の台帳管理・電子化等の取組を進めます。

○業務概況

- ・トンネルなど特殊工事の積算に取組み、積算技術の向上、品質アップを図り、発注者（県、市町村）の支援を充実します。
- ・市町村の円滑な公共工事推進のため、工事積算・現場技術業務、橋梁補修アドバイス業務、災害復旧支援などの業務拡大、業務の効率化、技術力の向上を進めます。
- ・境港市「水木しげるロードリニューアル工事」（H30.7月完成）の現場技術業務を確実に実施し、業務の効果、メリットを他の市町村へ積極的にPRし、業務拡大に努めます。

〔事業費総括表〕

（単位：千円）

区 分	H30年度予算 A	H29年度予算 B	増減額 A-B	備 考
受託（県）	60,990	60,184	806	
受託（市町村）	15,579	21,932	△ 6,353	
災害復旧支援	3,000	3,700	△ 700	市町村
ひびわれ相談	2,000	2,000	0	民間
ドローン空撮	350	350	0	県、市町村ほか
計	81,919	88,166	△ 6,247	

○業務内容

（1）受託（県関係）

業 務 名	内 容	予 算 H30年度 (H29年度)
①工事積算補助 (継続)	設計業務委託成果品をもとに、発注者用図面作成、設計数量のチェック及び算出、工事価格の積算等を行います。 (H30) 60件 (H29) 60件	25,067千円 (24,554千円)
②ひび割れ診断指導 (継続)	センターのコンクリート診断士がコンクリート構造物に発生したひび割れの診断を行い、ひび割れ抑制の指導を行います。 (H30) 10箇所 (H29) 10箇所	1,710千円 (1,686千円)

③新技術・新工法活用システム事前審査 (継続)	県内の建設業者等で開発された新技術等の利活用の促進と製品の販路拡大を目的に、その工法及び製品が公共工事に活用出来るかどうかを事前に審査を行います。 (H30) 5件 (H29) 5件	828千円 (822千円)
④道路台帳等修正 (継続)	道路工事後の道路形状変更、供用開始の告示資料、道路台帳付図の修正、道路情報便覧更新作業、道路現況調査票や交付税基礎数値算定資料などの作成を行います。 H30年度は交付税検査があります。	15,737千円 (13,052千円)
⑤工事検査補助 (継続)	当初請負対象設計金額が15,000千円未満の合否判定のみの工事検査について、請負業者が作成した工事完成資料の事前確認を行います。 (H30) 60箇所 (H29) 60箇所	1,996千円 (1,950千円)
⑥電子成果品保管・管理 (継続)	県の請負工事及び測量設計業務に係る電子納品成果品(CD等)をセンター内で保管・管理します。 (H30) 600枚 (H29) 600枚	2,208千円 (2,199千円)
⑦再生砕石及び再生アスファルト合材品質実態調査に係る試験 (継続)	再生砕石は、既設の構造物(コンクリート、アスファルト等)を破碎したものを原材料としており、原材料の均一性を確保することが困難なことから、新材と比べ品質規格を満足しないことが生じやすいため、センターにおいて、ふるい分け試験等を行い、品質を調査します。	831千円 (2,276千円)
⑧賃金水準等詳細調査 (継続)	県発注工事において、専門業者(とび、型枠、鉄筋等5業種)への下請契約が、適正な賃金水準で契約されているかどうか調査するもので、800工種程度を対象に下請契約の見積金額と設計金額とを対比させた資料を作成します。 (H30) 800工種程度 (H29) 800工種程度	4,748千円 (4,701千円)
⑨建設工事下請取引等点検調査 (継続)	県発注の建設工事に係る下請取引等について適正化を図るため、その取引状況(下請代金の見積・契約方法等)が建設業法の規定に違反がないか点検調査を行います。 (H30) 約200件 (H29) 約200件	4,261千円 (4,261千円)
⑩工事施工管理図書の電子化 (新規)	県の土木工事共通仕様書、施工管理基準等の改訂作業の支援と電子書籍化を行います。	1,692千円 (- 千円)
⑪インフラ維持管理技術養成講習支援 (新規)	県と鳥取大学が共同開発する維持管理システムの実装後、インフラ点検診断を担う住民を対象に、維持管理技術を養成する講習を実施します。	1,912千円 (- 千円)
⑫コンクリート長寿命化対策	(完了)	- 千円 (1,709千円)
⑬入札閲覧設計書図面データ提供	(完了)	- 千円 (2,974千円)
計		60,990千円 (60,184千円)

(2) 受託(市町村関係)

業務名	内容	予 算 H30年度 (H29年度)
①工事積算補助 (継続)	市町村が発注する工事のうち、専門的な技術を必要とする工事の積算を行います。 (H30) 10件 琴浦町、境港市、湯梨浜町 (H29) 21件 琴浦町、境港市、大山町	4,238千円 (13,394千円)
②現場技術 (継続)	市町村が発注する工事のうち、専門的な技術を必要とする工事の現場技術業務を行います。 (H30) 3件 境港市 (H29) 1件 境港市	4,926千円 (2,600千円)
③橋梁補修工事の積算、現場管理補助及びアドバイス (継続)	市町村が発注する工事のうち、特に専門的な技術を必要とする橋梁補修工事に対するアドバイスを行います。 (H30) 10件 倉吉市、境港市、岩美町、智頭町、三朝町、琴浦町、大山町(2市5町) (H29) 15件 鳥取市、倉吉市、境港市、岩美町、智頭町、八頭町、三朝町、琴浦町(3市5町)	6,100千円 (5,760千円)
④賃金水準等詳細調査 (継続)	鳥取市から「受託(県関係):⑧賃金水準等詳細調査」と同様の業務を30工種程度受託します。 (H30) 30工種程度 (H29) 30工種程度	315千円 (178千円)
計		15,579千円 (21,932千円)

(3) その他

業 務 名	内 容	予 算 H30 年度 (H29 年度)
災害復旧支援 (継続)	被災状況等の調査、復旧工法等の技術的助言及び査定設計書等の作成を行います。 (H30) 5 件 想定 (H29) 8 件 倉吉市、三朝町、湯梨浜町、北栄町	3,000 千円 (3,700 千円)
コンクリートひび割れ相談 (継続)	受注者からの依頼により、コンクリート構造物のひび割れをコンクリート診断士が調査し、ひび割れ発生の原因の特定、補修の要否の決定及び補修方法等を記載した「ひび割れ診断報告書」の作成に併せ、ひび割れ抑制・防止対策等について受注者に指導します。 (H30) 20 件 (H29) 20 件	2,000 千円 (2,000 千円)
支援業務の効率化 (ドローンによる空撮等) (継続)	災害状況、工事進捗状況等の把握を行います。 (H30) 5 件 (空撮) (H29) 5 件 (空撮)	350 千円 (350 千円)

1-4-2 新規業務（効率的なインフラ維持管理支援）

(1) 維持管理システムを活用した支援

ICTによる生産性向上に併せ、住民協働と先端技術を組み合わせ、業務効率化を図る「維持管理システム」を県と鳥取大学が共同研究により開発します。

当センターはシステム運用後、サーバー運用、市町村への展開、市町村のメンテナンスサイクル支援等を行うため、H30年度は維持管理支援の体制整備、支援フロー・仕組みづくりに取組みます。

[具体的な取組]

- ① 道路台帳（図面、座標等）電子化し維持管理システムへ保存
- ② 市町村へのシステムPR、導入依頼
- ③ 市町村展開のためシステム試行（モデル町による試行）

(2) 市町村の橋梁点検支援

橋梁法定点検（5年に1回）がH30年度で1巡目点検が終了することから、2巡目以降の市町村の橋梁点検における支援方法、仕組みづくりを進めます。

H31年度から、市町村の橋梁点検から補修、工事等維持管理におけるメンテナンスサイクルの支援実現を目指します。

[具体的な取組]

- ① 橋梁台帳の整備（3次元データを利用した一般図作成等）並びに電子化、保管支援
- ② 直営点検（小規模橋梁）の支援

1-5 建設発生土受入事業

H30年度のポイント

【新規事業所の開所を目指し、県内全域での受入体制を整備します。】

○東部地区

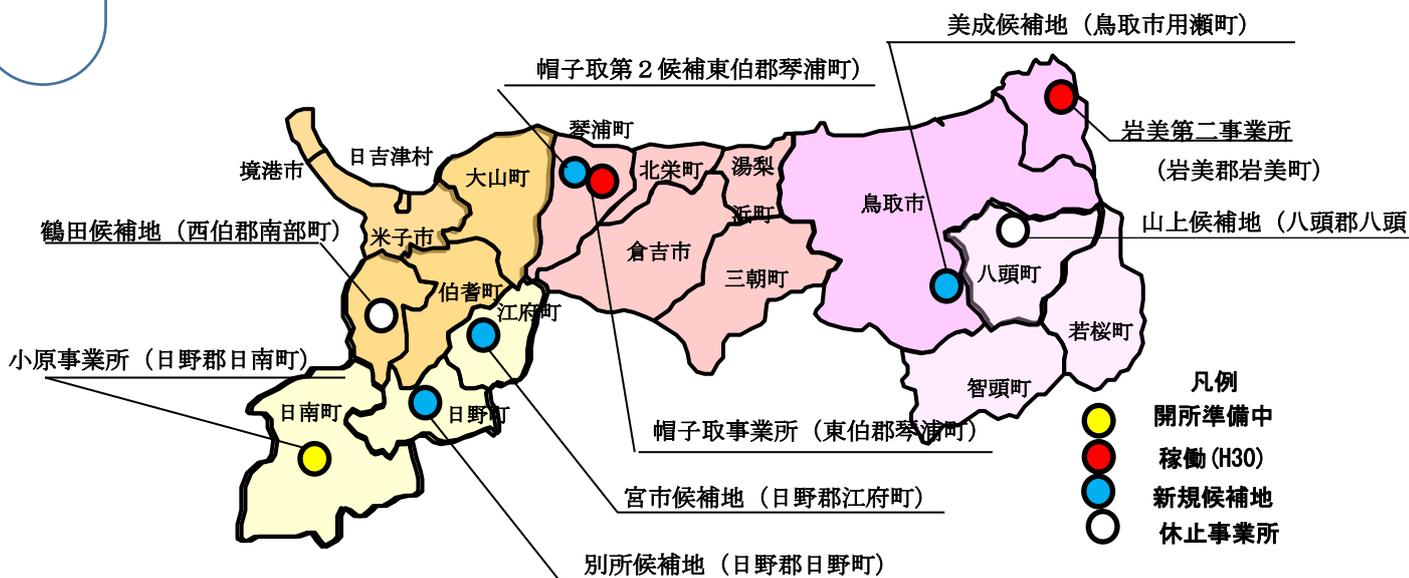
- ・第2三谷事業所(鳥取市河原町)はH29年11月に受入が完了したことから、美成地区(鳥取市用瀬町)を新規候補地として選定しており、H30年度に詳細設計業務委託を発注し、H30年度後期には受入ができる体制を整えます。

○中部地区

- ・稼働中の帽子取事業所(東伯郡琴浦町)が、H31年度に受入が完了することから、新規候補地として隣接地の帽子取第2候補地を選定しており、H30年度に詳細設計業務委託を発注しH32年度から引き続き受入ができるよう準備を進めていきます。

○西部地区

- ・米子管内は、鶴田候補地(西伯郡南部町)が休止となったことから、候補地選定を急ぎ概略設計業務委託を発注し早期開所を目指します。
- ・日野管内は、別所地区(日野郡日野町)、宮市地区(日野郡江府町)を新規候補地として選定しており、H30年度には詳細設計業務委託を発注し、H31年度開所を目指します。



【事業概要】

(1) 東部地区

- ・第2三谷事業所(鳥取市河原町)はH29年度8.3万m³の受入を行い、H29年11月で完了したため、H30年度は場内の進入路舗装等仕上工事を行います。
- ・岩美第二事業所(岩美郡岩美町)はH30年度も引き続き造成工事を発注し、8.4万m²の受入を行います。

(2) 中部地区

- ・帽子取事業所（東伯郡琴浦町）は、H29 年度に事業所用地の拡大により約 6 万 m³ の容量増（全体受入容量 35 万 m³）となりました。
- ・H30 年度は 3.5 万 m³ の受入を行い、H31 年度には受入が完了する予定です。

(3) 西部地区

- ・小原事業所（日野郡日南町）は、国土交通省が実施する鍵掛峠道路トンネル工事専用処分場として、H31 年度の開所を目指し、H29 年度には進入路工事等準備を進めてきましたが、国土交通省の用地買収等の遅れにより開所時期が H33 年度に延期となりました。

(4) 新規候補地

新規候補として、H29 年度までに 4 箇所（東部 1 箇所、中部 1 箇所、西部 2 箇所）を選定しており、H30 年度は詳細設計業務委託を発注し開所にむけ準備を進めていきます。

建設発生土受入事業は、公共事業を推進していく上で重要な役割を担っており、各地区で切れ目無く受入地を確保しておく必要があります。

また、大規模災害及び大型公共事業を推進するため、迅速に受入地を確保し対応できる体制を整えるため、H30 年度は 2 箇所程度さらに候補地を選定し、概略設計業務委託を発注する予定です。

新規候補地名	所在地	概算受入容量	開所年度	H30 年度業務	備考
美成	鳥取市用瀬町	60 万 m ³	H30 年度後期	詳細設計 準備工事	地権者等関係者同意済 (H29 概略設計完了)
帽子取第 2	東伯郡琴浦町	28 万 m ³	H32 年度	詳細設計	地権者等関係者同意済 (H27 概略設計完了)
別所	日野郡日野町	13 万 m ³	H31 年度	詳細設計	地権者等関係者同意済 (H29 概略設計完了)
宮市	日野郡江府町	48 万 m ³	H31 年度	詳細設計	地権者と協議中 (H23 概略設計完了)
米子管内 (新規)	—	—	—	概略設計	候補地選定中
その他 (新規)	—	—	—	概略設計	候補地選定中

受入収入一覧表

1,296 円/m³(※岩美第二は 2,484 円/m³) (単位：千円)

地区	事業所名	H29 年度予算 A		H30 年度予算 B		増減額 B-A (千円)	備考
		土量(m ³)	収入(千円)	土量(m ³)	収入(千円)		
東部	第2三谷 (鳥取市河原町)	105,000	136,080	—	—	△136,080	H29.11 受入完了
	岩美第二 (岩美郡岩美町)	55,000	136,620	84,000	208,656	72,036	
	美成(新規) (鳥取市用瀬町)	0	0	5,000	6,480	6,480	
中部	帽子取 (東伯郡琴浦町)	29,000	37,584	35,000	45,360	7,776	
西部	鶴田(候補地) (西伯郡南部町)	10,000	12,960	—	—	△12,960	休止
計		199,000	323,244	124,000	260,496	△62,748	

H30 年度 工事等予算一覧表

(単位：千円)

地区	事業所名	工事等予算額				備考
		予算額	H29 予算額	H30 予算額	H31 予算見込額	
東部	第2三谷 (鳥取市河原町)	80,000	40,000	40,000		造成工事(債務負担行為済) H29.7~H30.4
		45,000		45,000		場内仕上工事 H30.5~H30.11
	岩美第二 (岩美郡岩美町)	50,000		50,000		造成工事 H30.5~H31.3
	第2三代寺 (鳥取市国府町)	6,000		6,000		沈砂池撤去土砂運搬工事 H30.5~H30.11
	美成候補地 (鳥取市用瀬町)	45,000		45,000		詳細設計(許可申請書含) H30.5~H30.12
		90,000		0	90,000	沈砂池設置等造成工事(債務負担行為) H31.2~H31.10
中部	帽子取 (東伯郡琴浦町)	40,000	22,000	18,000		造成工事(債務負担行為済) H29.12~H30.9
		40,000		28,000	12,000	造成工事(債務負担行為) H30.8~H31.7
	帽子取第2候補地 (東伯郡琴浦町)	30,000		30,000		詳細設計(許可申請書含) H30.7~H31.1
西部	別所候補地 (日野郡日野町)	28,000		28,000		詳細設計(許可申請書含) H30.5~H31.1
		40,000		0	40,000	沈砂池設置等準備工事(債務負担行為) H31.2~H31.11
	宮市候補地 (日野郡江府町)	25,000		25,000		詳細設計(許可申請書含) H30.7~H31.1
調査	米子管内 新規候補地調査	5,000		5,000		概略設計
	新規候補地調査	5,000		5,000		概略設計
計		529,000	62,000	325,000	142,000	

事業所別受入土量見込

(単位：千 m³)

地区	事業所名	受入期間	全体 土量	H29年度 受入土量	H29年度末 受入累計	H30年度 受入土量	H30年度末 受入累計	H30年度末 受入可能土 量	進捗率 (%)
東 部	第2三谷 (鳥取市)	H25年5月～ H29年11月	915	83	915	—	—	—	100%
	岩美第二 (岩美町)	H28年8月～ H32年度	165	13	16	84	100	65	60%
	美成(新規) (鳥取市)	H30年～ H40年	600	—	—	5	5	595	8%
中 部	帽子取 (琴浦町)	H23年12月 ～H32年度	350	39	307	35	342	8	97%
西 部	小原 (日南町)	H33年度～ H35年度	218	—	—	—	—	—	—
計			2,248	135	1,238	124	447	668	

2 法人の運営・管理の運営

(1) 理事会及び評議員会の開催について

①理事会

開催時期	内 容
H30年 5月	H29年度事業報告、決算及び評議員会の開催について
H30年 10月	H30年度職務執行状況について
H31年 3月	H31年度事業計画書等の提出及び評議員会の開催について

②評議員会

開催時期	内 容
H30年 5月	H29年度事業報告、決算について
H31年 3月	H31年度事業計画書等について

(2) 監事監査の実施について

開催時期	内 容
H30年 5月	H29年度決算監査
H30年 11月	H30年度定例監査

(3) 建設技術センターまつりの開催について

- ①開催日 H30年10月7日(日)
- ②テーマ 「地域に愛される建設技術センターを目指して」
- ③主催 鳥取県産業人材育成センター倉吉校と合同で開催
- ④内 容
- ・新分野進出紹介コーナー
 - ・新技術・新工法紹介コーナー
 - ・展示室(遺跡等：埋蔵文化財センター協力)
 - ・災害等のパネル展示
 - ・働く車(ダンプトラック等)の体験
 - ・子供たちが土木に興味を持てるパネル展示及びクイズラリー
- ⑤参加人数 600人(予定) (H29 500人)